制定されたルールであり，当該ガイドライン表示の規定にしたがって表示することが消費者の皆さんの信頼を得ることにつながりますので，ガイドラインに基づく表示が広く行われることが期待されています。

今回のガイドラインの改正に関する情報（改正の概要，パンフレット，Q＆A集，改正後のガイドライン本文等）は農林水産省のホームページ上に掲載されておりますので，参考にして頂ければ幸いです。（http://www.maff.go.jp/soshiki/syokuhin/heya/tokusai_gaido.htm）

こぼれ話

― 続・ヒマワリは日回りか？ ―

本誌35巻７号（平成13年10月号）29頁で「ヒマワリは日回りか？」と題して，ヒマワリの花は朝は太陽に向かって東を向き，日中陽が高くなると上に向き，陽が西に傾くと西を向く，つまり太陽の動きにつれて花が回るのでヒマワリ（日回，向日葵とも書く）というと言われているがこれはマッカなウソで，ヒマワリの花は，花が咲いたときの方向のままで断じて回ることはないと牧野富太郎博士が書いていると記載したが，別の研究ではこの説こそ誤りで，ヒマワリは生育時期によって太陽の動きにつれて回るというのが正しい説であることが判明したのでここに訂正する。

▲花は陽の動きにつれて回らない

百科事典などでヒマワリの項を調べると「日に回る」「日に回らない」と事典によって正反対のことが書かれている。実はヒマワリは葉と花の運動が顕著な植物で，生育初期の若い時期のヒマワリの茎の先端は太陽の動きにつれて東から西に回り，花が開花後はこの運動は止まり陽の動きにつれて回ることはないというのが正しい説である。

ヒマワリが若い時期は太陽光線を受けるとオーキシンという成長ホルモンを作り，このオーキシンは日光が当らない側では濃度が高くなって，集中的に働いて反応点の細胞を刺激して成長運動を続けるといわれている。従ってオーキシンは太陽の動きとともに日光が当らない方向に移動し，日陰側の細胞がよく伸びて，ヒマワリの若い茎の先端は常に太陽の方向を向く転頭運動をするといわれている。この運動は蕾ができない若い時期まで続き，夜中の12時にはちゃんと東を向いて止まり，翌朝また，東から西に回転するのである。この転頭運動は花が咲くと止まり，花は多くは東の方向を向いたまま動かなくなるのである。このことから，百科事典によって「日に回る」「日に回らない」とあるのはいずれも間違いではないが，正確ではない。　Ⓣ

（参考図書「ほんとの植物観察」地人書館）